「あんた、べちよたれ雑炊は食べてかへ。」
「頂戴な仕る、コレ玉菊やお戴き申せよそうてとらす。御兩人頂戴な致す…コノ汁の中にジヤギ〳〵いたす物が御座るが……。」
「ア、それは味噌が無いので、ネバ土が入つてあるのんで。」
「アヽネバ土で御座るか……長さが五分程で嚼むと甘味のあるものは。」
「そら新米藁が刻みこんたアるので。」
「左様で御座るか土を食んで藁を食み鰻を食めば腹の中で壁が塗れますのオ……このプツ〳〵してあるのは。」
「麻の實ぢや。」
「山雀の餌で御座るノ、香しき物は……。」
「新米糠がほうじて入れたあるので。」
「廿日鼠の餌で御座る。青臭いのは。」
「蓮華花の影干じや。」
「體毒下しで御座るノヲ、可愛い子には旅をさせ、旅は憂い物辛い物、土を喰て藁を喰い、蓮華げほうにげほうに長どん。」



「どうや美味かつたかナア……。」
「ハイ、ねつから美味しう御座つた。」
「マア辛抱さんせ、明日の朝は麥飯でも炊て進ぜる。嬶、奥のワシの寢間で寢さしてお上申せ、ワシ等は圍爐裏の側で寢るよつてに。」
と奥の一間へ二人を寢さしまして夫婦は圍爐裏の側で横に成りました……が夜中に右の娘さん暗黑の中でうろ〳〵して居ります。
「コレ娘さん、枕替りがして寢られんかへ、それとも便所へ行くのかへ。」
「イヽエ、今妾が便所へ行つて氣がつくと父上様が冷う堅うなつて居られました。」
「そら甚い騷動やがナア、コレ與次平はん、與次平はん。」
「ウム〳〵、ムシヤ〳〵〳〵。」
「ムシヤ〳〵やないし、旅のお侍が冷く堅う成つてはるのやと。」
「エヽそら甚い事やがナア、コレ何で火を消たんや。」
「お前が蒲團を跳たよつてに火が消たんやがナア。」
「火打石を持といで、これやさかい村方では旅の者を泊めなと云ふのや、そやのにお前が泊めると、云ふたで、こんな、間違ひが、出來た、のこ〳〵、さい〳〵。」